



るうてる



2023年
11月
No.911

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 竹田大地 koho@jelc.or.jp
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社
■定価 ■ 1部 40円(郵税を含む)
■振替口座 ■ 00190-7-1734

説教「老いの神学」

日本福音ルーテル田園調布教会・雪ヶ谷教会牧師 田島靖則

「あなたたちは生まれた時から負われ／胎を出した時から担われてきた。／同じように、わたしはあなたたちの老いる日まで／白髪になるまで、背負って行く。わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す。」(イザヤ書46:3b~4)



通常この巻頭説教は季節の聖書日課に基づいて作成されるようです。しかし、コロナ禍以降は私も他者に洩れず、毎週の礼拝説教をそれぞれの教会のホームページ上で動画公開しておりますので、日課通りの説教を「希望の方はどうかそちらをご覧ください。」

今から33年前、私は池袋のR大学で「老いの神学」と題した修士論文に取り組んでおりました。当時はまだ20代でしたので、テーマを考えると少々無謀な挑戦だったように思っています。当時の私は、高齢

者に対してある意味理想主義的なイメージを抱いておりました。歳を重ねるにつれて、人間はより思慮深くなり、その人生には深みが増えたと感じられる。路上で困っている人を見かけても、手を差し伸べて良いものかどうか尻込みしてしまう。世知辛い世の中になつたものだと思います。こうなると、社会はますます無味乾燥な場所を感じられてしまう。私たちが生きていくこの社会に、希望を感じている人は一体どのくらいいるのでしょうか。

「あなたたちは生まれた時から負われ／胎を出した時から担われてきた。／同じように、わたしはあなたたちの老いる日まで／白髪になるまで、背負って行く。わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す。」

よってSNSで批判に晒される昨今の風潮の中、誰もが萎縮せざるを得ないというわけです。その結果、他者に無関心に見える人が増えたように感じられる。路上で困っている人を見かけても、手を差し伸べて良いものかどうか尻込みしてしまう。世知辛い世の中になつたものだと思います。こうなると、社会はますます無味乾燥な場所を感じられてしまう。私たちが生きていくこの社会に、希望を感じている人は一体どのくらいいるのでしょうか。

まさかそのような、夢も希望も潰えたように見える状況の中で、預言者イザヤは生き残つたユダヤ人たちに呼びかけます。イザヤ書を読み進むと、何もかも失つた人々を奮立たせることは容易ではないと思いが知られます。あらゆる言葉を重ねて、ユダヤの人たちをもう一度立ち上げさせようと、必死の思いでイザヤは「神の言葉」を取り継ぎます。

まず、半世紀にわたる捕囚生活で生まれた神への不信が払拭されなければなりません。何しろ46年間



瞑想する哲学者 レンブラント・ファン・レイン 1632年 ルーブル美術館

私がかかわる教会では、聖書研究会も現在はオンラインで行われます。前任者から引き継いだ旧約聖書イザヤ書の学びが続いています。ご承知のようにイスラエル統一王国は、サウル、ダビデ、ソロモンと3代

続いた後分裂します。紀元前721年に北王国イスラエルは滅亡し、紀元前585年に南王国ユダも新バビロニア帝国によって滅ぼされます。バビロンで捕囚民となつたユダヤ人は、その46年後に新たな征服者であるペルシャ王キュロスによって解放されます。その46年間の捕囚生活がユダヤ人の存在の根底を揺さぶり、「選ばれた民」としての誇りも、民族の希望も失われたかのように見える惨状を生んだのです。

まさにそのような、夢も希望も潰えたように見える状況の中で、預言者イザヤは生き残つたユダヤ人たちに呼びかけます。イザヤ書を読み進むと、何もかも失つた人々を奮立たせることは容易ではないと思いが知られます。あらゆる言葉を重ねて、ユダヤの人たちをもう一度立ち上げさせようと、必死の思いでイザヤは「神の言葉」を取り継ぎます。

まず、半世紀にわたる捕囚生活で生まれた神への不信が払拭されなければなりません。何しろ46年間

苦しんでいた間、神は一体どこで何をしていたのか？という素朴で根本的な疑問に答える必要がありました。このお話を聞いて、「足あと(foot print)」と題された詩を思い出す方もおられるでしょう。1990年代に米国のキリスト教会で、作者不明の詩として話題となつたあの詩です。キリストと共に自らの人生を振り返る時、そこにはいつも二人分の足跡が残されているのを見えました。自分の足跡とキリストの足跡でした。でも、不思議なことにその人が人生の中で一番苦しんでいた時には二人分の足跡しか残されていない。その人はキリストに尋ねます、「私が一番苦しんでいた時に、あなたは何故一緒にいてくださらなかったのですか？キリストは答えるのです。「あの時私は、あなたを背負って歩いていた」。



伊藤早奈

「天は神の栄光を物語り／大空は御手の業を示す。」
詩編19:2

「どうしていつも笑っているの？そして何でいつもお礼が言えるの？」と言われ思わずこう聞き返していました。「えっ私笑っている？」あまりにも最近いろいろなことを経験したので自分は笑いを忘れていたのではないかと不安になっていました。私笑顔をお忘れりなかつたんだ。冒頭の言葉は先日入院したとき隣のベッドの方に言われました。私とは病名は違いますがその方の病氣も進行性で苦勞されていたから投げかけられた言葉だったのか、どのような気持ちで投げかけられたのか私にはわかりません。その言葉は私に、私は笑顔をお忘れりないこと

も、ありがとうと言える心が残っていることをも思い出させてくれました。そして自分が周りに笑顔と感謝を伝えていたことに気づかされていた。用いられていることなのだろうか？逆に強いメッセージを込めているものもたくさんあります。その一つによく食卓で見かける絵があります。ただそれを見ると、どれだけの人がその絵の作者を知り、どれだけの人がその絵の意味を：と思うとおかしくなります。ましてや見た人がその絵の解釈をその絵を載せた人の意図しなかつた方向で解釈していたら、用いられるつてどういうこと？作者は神様です。

【お詫びと訂正】
機関紙るうてる10月号巻頭説教落丁の件
竹田大地(日本福音ルーテル教会広報室長)

るうてる10月号の高村敏浩牧師執筆の「巻頭説教」において大幅な落丁がございました。執筆者の高村牧師、購読者の皆様にも多大なご迷惑をおかけしましたこと申し訳ございません。今後、よりいっそう細心の注意をはらい編集作業に取り組みまいります。4面に改めて10月号巻頭説教の全文を掲載いたします。今後とも「機関紙るうてる」を何卒よろしく願っています。

改 宣教室

小泉基 宣教室長
(日本福音ルーテル
札幌教会牧師)

— 佐伯さんには、3年前に社会委員会が発行した『多様な性を知るために』の執筆で全面的にお世話になりました。もともとセクシャルティーの事柄について関心をお持ちだったので、

佐伯 長年、小・中学校の養護教諭として仕事をしてきました。小学校で保健室登校を支えて落ちついた子が、中学校で荒れて自殺未遂を

— 今の学校現場で、セクシャルマイノリティーの子どもたちは、どんな辛さを経験していくのでしょうか。

— いる子が多いと思います。友人に言うのと嫌われ、いじめられるかもしれない。先生に言うとおに伝わって親が悲しむかもしれないとも思うでしょう。孤立したり、自分を守るために当事者ではないふりをして周囲の差別的な言動に同調したりする子たちもいます。ただ、少しずつですが学校でカミングアウトする子も増えていきます。学校の性教育指導体制が問われますが、個人で頑張っている教員はおられても、組織としてはまだまだ準備不足です。

— キリスト教会の役割について、考えておられることがありますか？

佐伯 教会は、祈りの場であるとともに出会いの場です。教会員であるなしにかかわらず、迷い悩みを抱える人、悲しんでいる人、困難を抱えている多様な人たちが



が安心して出入りし、語りあうことができる場です。ただそのことを、当事者たちが知らなければ、また知っていても教会の雰囲気やオーブンでなければ、その役割は果たせません。教会員がセクシャルマイノリティーやその他の差別の現状について、学んだら、話し合ったりできれば、この課題について教会の役割が見えてくるかもしれません。

— ありがとうございます。大切にしている聖書の箇所があれば、教えてください。

佐伯 「何事にも時があり」(コヘレトの言葉 3・1)です。「置かれた場所で咲く」ことを大切に生きてきました。いろいろ困難な職場で仕事をしましたが、その都度「神様が準備してくださった時と場所」と受け止め、子どもたちとの出会いを感謝し、頑張ることができました。後で、本当に神様が時を選ん

で与えてくださったと思うことがかりでした。

— ありがとうございます。大切にしている聖書の箇所があれば、教えてください。

— ありがとうございます。大切にしている聖書の箇所があれば、教えてください。

梅の収穫をする園児

リレーコラム

「全国の教会・施設から」⑥



日本福音ルーテル千葉教会

小澤周平
(日本福音ルーテル千葉教会牧師)

千葉教会の会堂は、JR総武線稲毛駅から徒歩3分の場所にあり、東教区としては関東の東端。新来会者が足を運びやすい一方で、会員は広い地域から礼拝に集まります。

都市部の便利さと房総の自然の豊かさを併せ持つ千葉の地にて、19

50年代にP. C. ジョーンズ宣教師を中心としたルーテル教会の伝道活動が始まりました。西千葉の宣教師館の時代を経て、1956年には稲毛の地に会堂が与えられ、千葉教会の群れが育まれました。初代の会堂は米軍キャンプ用のカマボコ型の質素な建物でしたが、すぐに手狭になりました。より多くの人と礼拝を守るため6年後に会堂を新築。その約30年後に2度目の会堂建築を経験し、現在に至っています。



千葉教会礼拝堂全景

至っています。宣教活動は地域に意識が向けられてきました。日曜礼拝後の「うどん食堂」(実際には毎週多彩なメニュー)は知る人ぞ知る癒しの空間。道行く若者が招かれたことも。主にある交わりの場によって信仰生活が豊かになった人も少なくない。かつてのことでしょう。バザー等の行事も盛んに行われてきました。また、親子世代は、教会学校だけでなく平日の育児サークルを通して共に成長の機会が与えられました。

千葉ベタニヤホームとの繋がりも強く、特に若

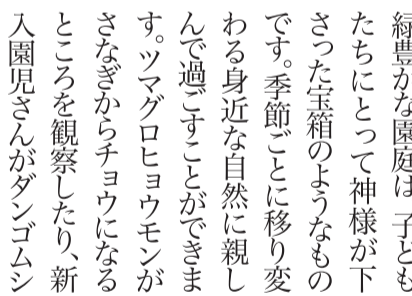
九州ルーテル学院幼稚園

谷美和
(九州ルーテル学院幼稚園園長)

1947年、宣教師として九州女学院に赴任されたヘルティ・ブライド先生を初代園長として旧九州女学院幼稚園が設立されました。学校が設立されました。学校が設立されました。学校が設立されました。

2001年に中学高校の共学化に伴い校名が変更され、本園もルーテル学院幼稚園へと改称しました。さらに2015年には、0歳から就学までの卒園生を送り出してきました。今では、親子・孫といった3世代にわたって入園される方もいらっしゃるようです。

学院の同敷地内には、中学・高等学校・大学が併設されており、その一番奥にこども園は位置しています。学院内の恵まれた環境の中にある緑豊かな園庭は、子どもたちにとって神様が下さった宝箱のようなものです。季節ごとに移り変わる身近な自然に親しんで過ごすことができます。ツマグロヒヨウモンがさなぎからチョウになるところを観察したり、新入園児さんがダンゴムシ



梅の収穫をする園児

世界の教会の声

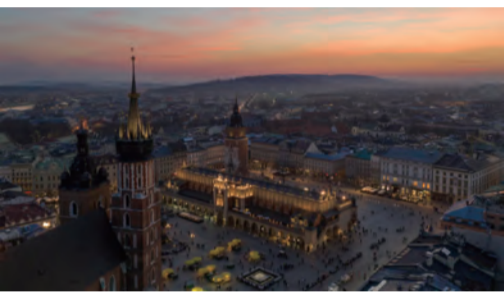
浅野直樹 Sr.
(世界宣教主事
市ヶ谷教会・スオミ教会牧師)

LWFアセンブリー報告 「キリストの体における一致」

LWF(世界ルーテル連盟)は、99カ国の150教会が加盟するルーテル教会の世界組織で、信徒総数は七千七百万人を数えます。日本福音ルーテル教会(JELC)は1952年から加盟しています。9月13日から19日にかけてポランドのクラカウで第13回アセンブリー(総大会)が開催され、約千人が参加者しました。今回のテーマはエフエソの信徒への手紙4章4節から選ばれ「One Body, One Spirit, One Hope (ひとつの体、ひとつの霊、ひとつの希望)」となりました。このテーマに関連してインドネシアの神学者ベニー・シナガ博士が行った講演の一部をご紹介します。

「私たちはコミュニケーションという教会の体を構成しています。体としての教会を二つに保つにせよ、暴力と支配から人の体を守ることにせよ、体はつなぎとめておかねばなりません。」

「強いことを指摘しました。そうしたなか、彼女が属するバタックのHKB P教会では大きな進展があり、女性も神学教育を受けられるようになり、1986年にはバタック初の女性按手が誕生、今日まで二千人以上が牧師、説教者、社会奉仕者、伝道師あるいは長老として按手を受けたとのこと。」



シナガ博士は講演を次の言葉で締めくくりました。「キリストの自己犠牲という果実から一つの体が出来上がります。この果実が敵意、差別、拒絶、分極化、戦争、不平等、ヘイト、不義を打ち砕いていくのです。」

「ルーテルアワー」紙は、東教区インターネット伝道が運営する、ウェブサイト「ルーテルアワー」の記事を転載したものです。聖書やキリスト教に興味を持つノンクリスチャンを主な対象と位置づけていますが、インターネット環境のない方にもご覧いただけるよう、本紙の発行を始めました。

佐藤和宏 (日本福音ルーテル藤が丘教会牧師・東教区伝道奉仕部)

「ルーテルアワー」紙は、東教区インターネット伝道が運営する、ウェブサイト「ルーテルアワー」の記事を転載したものです。聖書やキリスト教に興味を持つノンクリスチャンを主な対象と位置づけていますが、インターネット環境のない方にもご覧いただけるよう、本紙の発行を始めました。

「火」に開催されました。当会会員の10法人とら事務局長も参加をいただき、リモート参加を合わせるとおよそ70名の総会となりました。1日目は、慈愛園の見学、角本浩牧師による開会礼拝の後、九州ルーテル学院准教授西章男先生を講師に迎え、「弱さを誇れる支援者の支え手」というテーマでワークショップを含めた研修を行いました。エッセンシャルワーカーと言われる私たちが抱え、その痛みを職員間で軽くしたり和らげたりすることに、よい援助ができる事を学びました。現場を思い出すながら演じて実感したり、確認したりと普段出さない大きな声や笑顔があふれた研修となりました。そのような現場に卒業生を送り出す学校の教師の立場から、講師の西先生自身もソーシャルワーカーとして感じていたこと等、お土産二杯の研修となりました。



「ルーテルアワー」紙を発行しています。

「ルーテルアワー」紙は、東教区インターネット伝道が運営する、ウェブサイト「ルーテルアワー」の記事を転載したものです。聖書やキリスト教に興味を持つノンクリスチャンを主な対象と位置づけていますが、インターネット環境のない方にもご覧いただけるよう、本紙の発行を始めました。



公式LINE登録用QRコード
申込メールフォーム用QRコード

2023年度ルーテル社会福祉協会総会報告

高橋睦 (東京老人ホーム常務理事
ルーテル社会福祉協会会長)

毎年8月に行ってきた当会の総会(研修会を含む)は、4年ぶりの対面(一部リモート参加を含む)開催が、熊本の慈愛園児童センターを会場に8月21日(月)〜22日(火)に開催されました。当会会員の10法人とら事務局長も参加をいただき、リモート参加を合わせるとおよそ70名の総会となりました。1日目は、慈愛園の見学、角本浩牧師による開会礼拝の後、九州ルーテル学院准教授西章男先生を講師に迎え、「弱さを誇れる支援者の支え手」というテーマでワークショップを含めた研修を行いました。エッセンシャルワーカーと言われる私たちが抱え、その痛みを職員間で軽くしたり和らげたりすることに、よい援助ができる事を学びました。現場を思い出すながら演じて実感したり、確認したりと普段出さない大きな声や笑顔があふれた研修となりました。そのような現場に卒業生を送り出す学校の教師の立場から、講師の西先生自身もソーシャルワーカーとして感じていたこと等、お土産二杯の研修となりました。

夜は、慈愛園傍の店を貸し切り(感染症対策)で楽しい懇親会。久しぶりの顔や、リモートでの打合せだけの仲間と会うことができ、大いに盛り上がっています。2日目は、22年度事業及び決算の報告、23年度の計画、予算の説明を行い、(承認は書面で実施)次回開催の地域、方法などについて提案・協議を行いました。

会場からは、「今回の総会を踏まえ、研修部分は、リモートによる参加を併用することに合わせ、さらに録画の配信を行えば、平日の同じ時間には参加できない職員も参加が可能なので、そのようにしてほしい」という提案もありました。

その後の時間はアピールタイムとし、ベタニヤホーム、東京老人ホーム、光の子会が創立100周年や日々の活動についてのアピールを行いました。

全プログラム終了後、小泉嗣牧師による祈りをもって閉会しました。

機関紙るるる
2023年10月号
1面巻頭説教

説教「不信仰を赦す神」

日本福音ルーテル三鷹教会牧師・ルーテル学院大学チャプレン 高村敏浩

「その子の父親はすぐに叫んだ。『信じます。信仰のないわたしをお助けください。』」
(マルコによる福音書9・24)



「不信仰は主要な罪であり、すべての罪の中の罪であるのだから、罪の赦しとはもっぱら不信仰の赦しであるに違いない。」アメリカのルーテル教会の神学者であるロバート・ジェンソンは、その神学的自信の中で自身の神学生時代を振り返り、当時強く影響を受けた19世紀スウェーデンの信徒説教者カール・オロフ・ロセニウスの言葉を

紹介します。ロセニウスは、神が私たちの不信仰―神を信じられないという―を赦されると言うのです。そしてジェンソンは、それまでこの当たり前のことに気が付かなかつたと告白します。

わたって説教を行います。それは、ヴァルトブルクに留まるように言う領主に対して、ヴィッテンベルクの教会の招聘を受けた牧師であることを根拠に自分の帰還を正当化した彼のアイデンティティによく合致したものでした。

同年5月から翌年初頭にかけて、ルターはペトロの手紙の連続説教を行います。彼は、この書簡の冒頭に登場する「イエス・キリストの使徒ペトロ」の「使徒」という言葉を、「語る者」、「口頭で宣べ伝える者」と、若干強引とも思える解釈をして、「書かれた文字」ではなく、「生きた声」である説教を「ペトロ全体」のテーマに据えます。そうして行われた連続説教は、ある種、福音説教についての説教と言えるような内容でした。福音説教とは何かを明確にし、説教者を育てることこそ、まだはじまったばかりの改革運動には何よりも必要なことだったの

と、ルターは知っていたからです。語られたみことばを通してその聞き手のうちに信仰をつくりだすことができるのは神だけである、信仰とは、神が私たちに働かれる神の業であると、ルターは知っていたからです。しかしだからこそ、ルターはみことばが語られることを、説教を、伝道の中にと理解しました。全力を尽くしてもなお不完全である人間を神が愛して用い、信じられないという葛藤を生きる私たちに語り、説教を通して働く神の恵みと憐みを、彼は信頼したのです。

宗教改革をおぼえるこの時期、私たちはあらためて立ち返ります。信じられない私たちに語りかけ、私たちの不信仰を赦して私たちがその愛する子どもとする神こそが、私たちの神であるというよい知らせに、そしてそれが何よりも、説教を通して私たちのもとに届くのだということに。アーメン。

「この歌は歌集『うたえ暗闇にとどまることのないように』の表題曲です。タイトルに「キリストは光として」という言葉が付され、作詞者名は無く、書き出し歌詞の後に「ヨハネによる福音書12・46」と記されます。

この歌はルカによる福音書23・43のイエスキリストのみ言葉から生まれ、また「まこと」と訳されている言葉は、ギリシャ語で「アーメン。イエスキリストの御名を讃美する」という強い約束のみことばです。この歌は多くの人が愛す



聖マリン聖堂
ヴィッテンベルクの祭壇画(下部)
ルーカス・クラナハ作 1547年

さへも改革を急進的に推し進め、混乱を引き起こす中では、福音をほつきりと語る説教こそが求められていたのです。混乱した街を回復させ、教会改革を進めるためにルターが最重要視し、また最優先に取り組んだことが福音の説教であるというところは、言い換えば、ルターがどれほど、説教―宣べ伝えられた神のことば―がその聞き手に働く力を信頼していたかということでもあります。説教を神が語る出来事として捉えていたルターは、他の何ものでもなく、説教こそ、伝道の要に据えたわけ

しかしルターは、人間の限界をも理解していました。たとえ説教者が神のみことばと格闘し、言葉を慎重に選んで十分に準備した説教をもつて福音を明確に語ったとしても、それでも人間の力によつては、説教者自身にも、また、説教を聞く者にも信仰をもたらし、それが騒乱へと発展します。そのよ

うな中、1522年3月にヴィッテンベルクへ帰還したルターは、1週間にわたって説教を行いま

「短い言葉をくり返し唱える」という祈りの歌の形式は、昔から礼拝の伝統にあつたようです。しかし、フランスにある超教派の男子修道会「テゼ」で歌われる歌は、そのような形式の歌・祈りのすばらしさをあらためて人々に伝え、テゼの歌は世界中で歌われるようになり、

「この歌はルカによる福音書23・43のイエスキリストのみ言葉から生まれ、また「まこと」と訳されている言葉は、ギリシャ語で「アーメン。イエスキリストの御名を讃美する」という強い約束のみことばです。この歌は多くの人が愛す

「この歌はルカによる福音書23・43のイエスキリストのみ言葉から生まれ、また「まこと」と訳されている言葉は、ギリシャ語で「アーメン。イエスキリストの御名を讃美する」という強い約束のみことばです。この歌は多くの人が愛す

「この歌はルカによる福音書23・43のイエスキリストのみ言葉から生まれ、また「まこと」と訳されている言葉は、ギリシャ語で「アーメン。イエスキリストの御名を讃美する」という強い約束のみことばです。この歌は多くの人が愛す

「教会讃美歌 増補」解説

北川逸英
日本ルーテル教会池上教会
杉並聖真教会牧師

解説④⑤ 増補48番
「まこと」 「まこと」

「イエスよ、あなたの御国においてになるときに、わたしを思い出してください」というルカによる福音書23・42の罪人からの願いに、イエスキリストは「アーメン」と、力強く答えてくださいます。

解説④⑥ 増補49番

「わたしたちが暗闇に留まることのないように」

この歌は歌集『うたえ暗闇にとどまることのないように』の表題曲です。タイトルに「キリストは光として」という言葉が付され、作詞者名は無く、書き出し歌詞の後に「ヨハネによる福音書12・46」と記されます。

公告

この度左記の行為を致しましたので、宗教学法第23条の規定に基づき公告致します。

2023年11月15日
宗教学法日本福音ルーテル教会

代表役員 永吉秀人
信徒利害関係人 各位
横浜教会土地 部売却
所在地 横浜市神奈川区松ヶ丘
所有者 日本福音ルーテル教会
地番 8番5、8番4の1
部
地目 宅地
地積 2筆合計1046.3平方メートル(公簿)の1部425.57平方メートル
価格 1千万円
理由 売却のため(売却先 田畑顕蔵様)
(株)コーラム企画